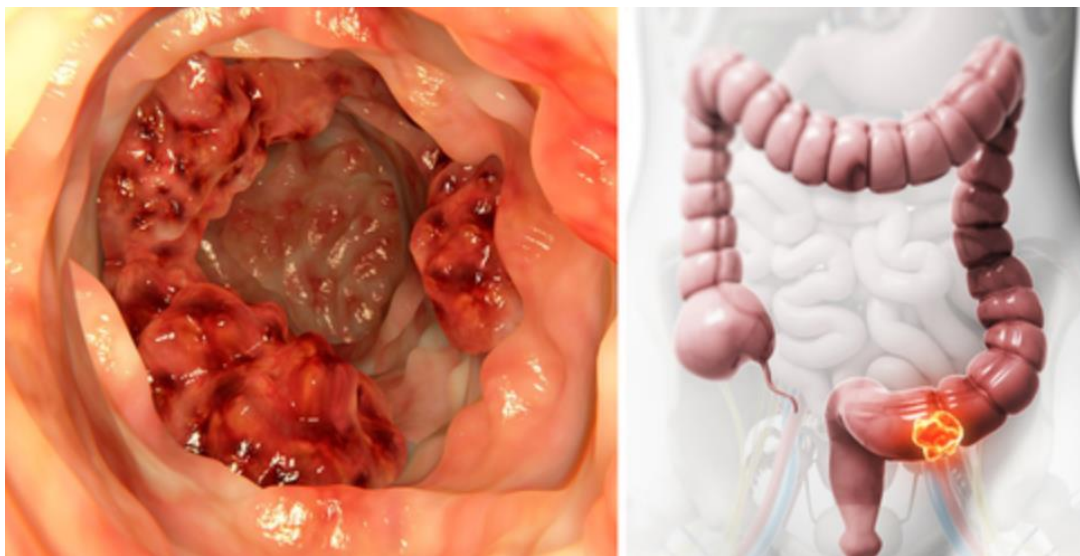


日本の大腸がん死亡数予測、米 国を上回る

米国では全大腸内視鏡検査（10年に1回）が最も広く行われており、50歳以上の内視鏡検査受診率は60.3%（2015年）に及びます。その結果、米国では男女とも大腸がん死亡者数が減少傾向にあります。



一方、日本の大腸がん検診は、40歳以上を対象に年1回の便潜血検査（免疫2日法）が行われていますが、大腸がんは増加の一途をたどっており、2018年の予測では米国を上回る結果となります。このことは、日本の人口が米国の4割であることを考えると、極めて異常な事態です。



大腸内視鏡検査により助かる命がたくさんあります。

